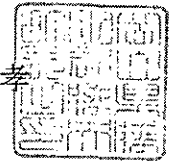


勝央産建第1043号

平成20年10月10日

国土交通省道路局長 殿

勝央町長 西田 孝



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のありました上記のことについて、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

昨今の道路特定財源等の議論を受け、制度の見直しが図られているところでありますが、行政の効率化という名目で、消防、ゴミ処理等の広域化が進められ、国・県の出先機関の統廃合等により移動距離は遠隔化の傾向にあり、道路整備の重要性はより増してきております。しかし、人口密度の低い中山間地域においては、事業効果の面で効果が低く対策が遅れているのが現状です。それぞれの市町村に対し、地域の実情に応じた、柔軟できめ細やかな道路整備が行える財源措置を強くお願いします。

近年、高度経済成長期に整備された施設の老朽化が顕著になっております。中には重大な事故を誘発する破損等もあり、早急な対策が求められますが、財政力の弱い地方において維持補修費は大きな負担となっています。今後、維持管理はさらに重要な取り組みになり、財政的負担も大きくなることが懸念されます。このため維持管理における補助制度の拡充及び財源措置を強く要望します。

現状の道路整備は複数の官省の下行われておりますが、道路利用者において全ては同じ道路であり、それぞれの道路は連絡、接続して初めてその機能を果たすため、包括的な道路ネットワークの構築が求められます。道路の種別を問わず、既設道路の価値を見直し、統合的な道路整備により、より効果的な道路ネットワークが実現すると思われれます。このため、国土交通省をはじめとした関係機関による一元的な計画・管理体制を整えていく必要があると考えます。

現在、岡山県において取り組んでいる地域高規格道路においては計画路線指定から 14 年の歳月が経過しておりますが、未だ一部区間の供用のみで工事の進捗が遅すぎると思います。道路の開通は地場産業の振興など地域に活力を生むものです。事業効果の早期発現のため、一日も早い完成を望んでいます。

今後の道路行政についての意見・提案

②—1 地域の現状と抱える課題

○現状 幹線町道の概ね整備され、集落内の整備を重点的に行っています。市街地は江戸時代に宿場町として栄え、現在に至っています。通学路もあり歩行者の通行も多いが狭小な道路のため、近くに立地する工業団地への通過車両により交通事故の危険性が高くなっています。また、用途地域内の土地利用に支障を来し、市街地の発展を阻害している要因の一つになっています。集落道においては、順次整備を行っているところではありますが、依然遅れている状況です。	○課題 我が町においても「安心・安全の町づくり」を進めているところですが、災害時における緊急車両の進入不可能な狭隘道路の解消、また、通学路における自転車道・歩道の整備、バリアフリー化等々、道路を利用する誰もが安全で安心に通行できる整備の必要があります。また、町を横断している鉄道の踏切協議が依然として進展なく、交通の円滑化を阻害しており、早期解決が求められています。住民からの様々な要望を満たすには昨今の厳しい財源事情では遅々として進まないのが現状であります。
---	--

今後の道路行政についての意見・提案

②—2 地域の目指すべき将来像

本町では農・工・商の調和のとれた活力ある町づくりを目指し、長期的・総合的な展望にたって町勢振興を進めています。当町においても、人口は減少傾向にあり少子高齢化は避けては通れない問題となっています。高齢者や障害者が安全に通行できるバリアフリー化、歩道整備による通学路の安全確保、効率的な道路網を基盤とした産業発展による雇用の場の創出など道路は住民生活と密接な関わりもち、町発展の一端を担う重要な分野であります。町民が快適な生活が送れるよう、広域的なネットワークから地区内の交通サービスまで、道路の持つ機能と役割に応じ、安全と利便、景観、経済発展に配慮した道路環境を目指します。